

在沖嘉手納空軍基地 第18航空団

ようこそ嘉手納基地へ



任 慡

アジアー太平洋地域における
平和と安定の促進

戦闘航空力及び前方展開基地の運用

同盟国の共同防衛

エンブレムについて

第18航空団のエンブレムには、勇気、果敢さ、自信を表す闘鶲の雄鳥(Cock)を採用。「爪と嘴とともに」を意味するラテン語が書かれており、雄鶲がつめとくちばしで相手を倒す勇ましさを航空団のモットーとしている。



嘉手納基地

太平洋地域における航空力の中核(ハブ)として、そして空軍の最大規模の戦闘航空団である第18航空団と様々なテナント部隊の本拠地となっています。

第18航空団とパートナー部隊から構成されるカデナ・チームは、太平洋の要石から即応体制を整える卓越した戦闘チームです。

国連軍を支援する後方基地としての役割も担っています。

飛行場

3700メートル級の滑走路が2本。

第18航空団・パートナー部隊の約100機が常駐。

第18航空団所属の全航空機の尾翼には「ZZ」のイニシャルが付いています。



嘉手納基地

嘉手納基地は、「太平洋の要石」と知られる戦略的な位置にあります。それぞれのリングが、嘉手納基地からの1時間毎の飛行時間・到達範囲を表します。

円内には、経済で見たトップ10カ国、人口で見たトップ10カ国が含まれます。また4時間以内で、インド、中国、ロシア、その他、過去100年における多くの主な紛争一例えは、第2次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争ーがあった地域に到達することが出来ます。



第18航空団の航空機

F-15C/Dイーグル



所属機数:約54機

乗員数:F-15C 1名 F-15D 2名

一機あたりの価格:2990万ドル(約30億円)(1998年)

主な任務:空対空戦闘機、航空優勢の獲得

速さ:マッハ2.5以上

KC-135Rストラトタンカー



所属機数:約15機

乗員数:3-5名

一機あたりの価格:3960万ドル(約40億円)(1998年)

主な任務:飛行中の航空機に燃料を補給、

貨物・人員の輸送、航空医療搬送業務

最大燃料容積:200,000ポンド(90,719Kg)

E-3 AWACS



所属機数:約1-2機

乗員数:4名 技術担当官13-19名

一機あたりの価格:2億7000万ドル(約270億円)(1998年)

主な任務:早期警戒管制、空中指揮統制

HH-60 ペイプ・ホーク

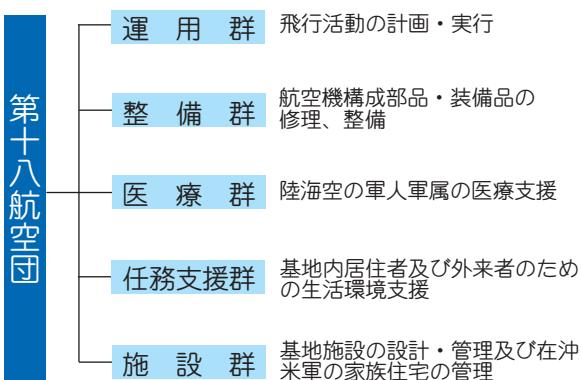


所属機数:約10機

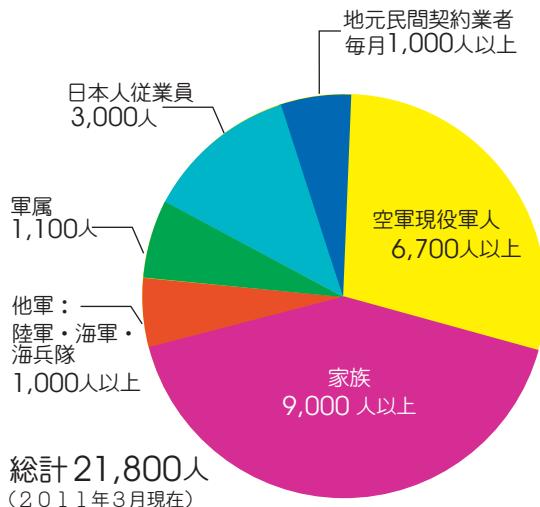
一機あたりの価格:930万ドル(約9億3000万円)(1998年)

主な任務:捜索救難救助活動、救急患者輸送

第18航空団組織図



要員



平均駐留期間

- 下士官（家族同伴）3年8ヶ月
- 下士官（単身）2年9ヶ月
- 将校（家族同伴）2年9ヶ月
- 将校（単身）1年9ヶ月

生活環境

学校・保育施設：

小学校：4校（生徒数約2800名）
中学校：2校（生徒数約1000名）
高 校：1校（生徒数約850名）
保育所：3箇所

消防署の数：五箇所。2004年には地元、ニライ消防本部と消防活動に関する相互協定が結ばれ、定期的に合同消火訓練を行っている。

その他施設：郵便局、銀行、スポーツ施設、礼拝堂、自動車教習所、映画館
(本国から一週間ほど遅れて上映)

史跡保護：基地内には多くの史跡があり文化財として保護されている。

地域交流活動

嘉手納基地地域社会との交流

米軍の海外駐留において重要な要素を成しているのが、米軍と受け入れ国との親善を促進することです。それゆえ海外駐留軍は、潜在的な敵対者に対する警戒だけではなく、受け入れ地域との親善活動にも多くの関心を注いでおり、市民活動や双方にとってプラスになる活動を通して、目に見える形での地域社会への貢献に努めます。

地域社会との交流活動を促進するにあたり、嘉手納基地は、県民をはじめ日本の皆様に基づき地の活動に対する透明性と理解を高めることを目指しています。

何十年もの間、嘉手納基地の住民は、地元地域の活動にボランティアとして参加し、沖縄県民のホスピタリティーに感謝してきました。道路や海岸線の清掃、英語学習指導、病院訪問、児童養護施設や老人ホームの修復作業など、様々なボランティア活動があげられます。

嘉手納基地は、米国国家安全戦略や米国東アジア太平洋安全戦略を象徴し、両戦略とも、米国の海外駐留軍の責務を特徴づけています。特に、後者の戦略は、嘉手納で行われているようなボランティア活動の重要性に焦点をあて、地元関係者や地域社会との協力を強調しています。地元レベルにおいて、軍の任務運用を行うと同時に利用可能な基地の資源活用を調和させながら地元地域と関わりあいを模索する。これが嘉手納基地の政策概念で、透明かつ開かれた姿勢で地域事案に対処するという米国の積極関与を忠実に映し出しています。その活動は、基地に関する疑問…例えば人々について、何のためにいるのか、何をしているのか…そのような疑問に対する不可解な気持ち、あるいは誤解を取り除くことに役立っています。

代表的な例を下記に紹介致します。

地元との交流

スペシャル オリンピックス（身体、知的障がい者スポーツ大会及び美術作品展示会）

スペシャルオリンピックス（身体、知的障がい者スポーツ大会及び美術作品展示会）：沖縄県と嘉手納基地周辺三自治体（沖縄市、嘉手納町、北谷町）の協力の下、嘉手納基地で毎年実施しているスペシャルオリンピックスは在沖米軍全体が参加する、完全ボランティア制の日米交流イベントです。2007年6月24日に開催された2007スペシャルオリンピックスには、1,000人を超えるアスリートとアーチスト（20人のアメリカ人アスリートとアーチストを含む）がスポーツ大会と美術作品展示会に參加しました。大会には、450人の通訳ボランティアと350人のエンターテイナーを含め約2700人のボランティアが大会を支えました。

仲里全輝沖縄県副知事、外務省沖縄事務所重家俊範特命全権大使、東門美津子沖縄市長、野国昌春北谷町長、沖縄県・地元市町村・沖縄防衛局関係者、航空団司令官が、開会式に参加しました。



おきなわマラソン

オリンピック選手参加資格査定対象となる正式なマラソンで、毎年2月に開催され、一部基地内を通過します。沖縄県中部地域の12市町村が主催するこのイベントは、地元、本土及び海外からおよそ一万人のランナーが参加します。嘉手納基地はゲートを開け、選手、大会役員がスムーズに基地内に入れるように支援しています。また基地から数百人のボランティアが沿道に出て、ランナー達に飲み物を手渡したりして応援します。米軍基地内を通過する日本で唯一のマラソンです。



沖縄国際カーニバル

通常毎年11月、沖縄市空港通り（第2ゲート前）を中心に開催されます。嘉手納基地の周辺自治体の中では、最大規模の地元の祭りとなっています。この祭りを通して、基地に住むアメリカ人、沖縄市在住の外国人、地元の市民らとの国際親善を高めます。何百人もの軍人、軍属その家族達が、沖縄の人々と一緒にパレードや日米ちびっこ大綱引きなどに参加します。

ハーリー（爬竜船）競争

那覇ハーリー船競争は、観光シーズンの始まりと関連して、例年5月、那覇市の安謝埠頭で開催されます。毎年、米軍各軍から男女2チームが参加し、地元沖縄チームあるいは米軍同士の競争が繰り広げられます。



英語ボランティア教師プログラム

沖縄県と米国総領事館の主導により、2000年に始まった活動で、嘉手納基地から年間100名近くのボランティアが、地元4校の小学校で、毎月2回程の割合で、英会話を教えています。

ボランティア活動

米国と沖縄の友好関係を高めるために、時間、人材、資源を定期的に提供することにより、嘉手納基地の要員は、嘉手納に赴任中、ボランティア精神のもつ前向きな伝統を残していく努力をしています。

ボランティア達は、清掃作業、児童養護施設、病院、老人ホーム、母子寮、海岸などの修復、美化作業に参加します。芝刈り、垣根の刈り込み、ペンキ塗り、小規模な工事を含む様々な活動を行います。

さらに、ボランティアらは、老人ホームや母子寮などの福祉施設に、食べ物、日用品、洋服、おもちゃ等の寄贈、時には現金の寄付を行っています。このような活動は、クリスマスシーズンに特に多く行われます。

基地内視察

アジアー太平洋地域における最大の米軍施設として、嘉手納基地は多くの訪問者にとって人気があります。

中央、地方自治体職員関係の基地内視察、航空自衛隊関係者の研修視察を受け入れています。さらに、沖縄の実業家、地域活動団体、学生らの基地内視察も行っています。基地内ツアープログラムの目的は住民の理解や支援を促進することにあります。

基地幹部の方針

市町長との懇談：嘉手納の第18航空団司令官は、率直な意見交換のための非公式なフォーラムを提供するために、近隣三自治体との市町長やビジネス界の方々とおよそ3ヶ月に1度の割合で懇談会を行っています。

歴史・文化財跡地の保存

沖縄戦で、沖縄住民の3分の1の人口が命を奪われ、何世紀も存続してきた多くの史跡が破壊されました。そのため、沖縄県民と同様アメリカ人は、嘉手納基地に残存する歴史的跡地を保存することを目指しています。拝所、墓、集落跡、洞窟、大戦の歴史的記念の地などを含む92の文化財が基地内にあり保存しています。記録を取り後世に残すため地元の教育委員会と合同業務もあります。

合同訓練

航空自衛隊や地元の緊急災害対応員との合同訓練は、強力な絆を築き上げるため、嘉手納基地にとって絶好の機会となっています。

航空自衛隊とは定期的に訓練を行っており、特に、例年、コープノース、キーンスオード、キーンエッジと呼ばれる3つの主要合同訓練を行っています。この訓練により、両者は航空戦闘及び地上における支援技能に磨きをかけ、戦闘戦術能力を共有し、日米の防衛同盟の強化を可能にしています。

航空自衛隊と嘉手納の航空要員らは、2007年より、在日米軍再編の一環として日本本土の自衛隊基地で訓練を行っています。これら訓練を通して統合・共同運用を行うことにより双方の相互運用力を高め、日本そして米国本邦での訓練の機会を促進しています。

地元レベルでは、米国と沖縄から何百人の消防隊員が参加する恒例の合同防災訓練を嘉手納基地で受け入れ実施しています。

また、在沖米軍は訓練を地元警察、消防署、海上保安庁、自衛隊等と定期的に図上訓練や合同訓練を行っています。

まとめ

沖縄で生活する全ての軍人と軍属にとって、嘉手納基地は彼らの故郷です。嘉手納基地は、相互尊敬と信頼関係を持ち、沖縄の方々と話し合いオープンに交流しています。嘉手納基地は、県民による日米安全保障条約への貢献を感謝していることを示しつつ、嘉手納基地と県民において相互信頼と尊敬が益々高まっていくことを希望します。